

(4) ①様式第4号-2 (報告書)

NITS カフェ報告書	実施機関名・連携機関名 実施機関：鹿児島県教育委員会 連携機関：鹿児島大学大学院教育学研究科（教職大学院） 鹿児島大学教育学部代用附属鹿児島市立伊敷中学校
※ 機構記入欄 No. : -	セミナー名：【NITS カフェ in KAGOSHIMA】 主タイトル：カリ・マネを語る会 副タイトル：つながることで資質・能力の育成へ
テーマ： 今回の学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の実現と同時にカリキュラム・マネジメントの充実が求められている。しかし、カリキュラム・マネジメントは具体が見えにくく、理解しにくいという意見が多く寄せられている。 そこで、本 NITS カフェでは、様々なキャリアステージにある教員、指導主事、学生が少人数グループを編成し、実践事例を基に懇談することを通して、参加者がカリキュラム・マネジメントに関する具体的なイメージをもち、実践につなげていくことを目指した。	
内容： 本セミナーは2部構成で実施した。第1部は、兵庫教育大学附属中学校、石川県能美市立辰口中学校及び鹿児島市立伊敷中学校の実践発表を行った。第2部は、アクティブ・ラーニングに関する理解を深めることを目指したワークショップを行った。 第1部 ○ 兵庫教育大学附属中学校の発表 「物事を多面的に理解し、やり抜く力をもつ生徒」の育成を目指し、クロスカリキュラムを取り入れ、総合的な学習の時間を中心に各教科等を「つなぐ・つなげる」ための実践に取り組んだ。具体的には、オリンピック・パラリンピックをテーマにした授業モデルを各教科で作成した。その際、各教科の本質を大切にすることに留意した。実践を通して教師自身の授業力や単元をデザインする力の育成が図られるとともに、教育課程を組織的かつ計画的に改善することにつながった。 ○ 石川県能美市立辰口中学校 「自ら学び、考え抜く力」、「必要な情報を選択し、活用する力」、「自分の考えを他者に分かりやすく伝える力」の育成を目指し、各教科で学んだことを活用・発揮する探究学習を取り入れた。生徒は総合的な学習の時間の中で、各学年のテーマに応じて各自が設定した課題研究を行った。課題研究の中で、地域リソースを効果的に活用することができた。また、書いたり発表したりするスキルが重要になってくることから、国語科との連携も重要視した。 ○ 鹿児島市立伊敷中学校 生徒の実態に基づき設定した汎用的な資質・能力を育成するために、各教科の学習の中で目指す生徒像を具体的にイメージしながら、日々の授業づくりや授業実践を行っている。目指す生徒像はルーブリックにまとめられ、ルーブリックは教師だけでなく、全生徒や保護者とも共有し、教師・生徒・家庭が一緒になって資質・能力の育成を目指している。また、各教科で学習したことと関連付けたり、総合的な学習の時間で活用・発揮したりする学習も取り入れている。 第2部 第2部はアクティブ・ラーニングに関するワークショップを行った。カリキュラム・マネジメントとアクティブ・ラーニングは、資質・能力を育成することを目的とした手段であり、車の両輪のように互いを補完する関係にある。そこで、今回は第1部でカリキュラム・マネジメントに関する理解を深めた後、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の授業改善の視点から、子供の学びの見取り方について演習を踏まえたワークショップを進めながら、アクティブ・ラーニングについて考えた。	

成果：

本懇談会のアンケートより

第1部

- ・ 言葉としてよく耳にするカリ・マネの具体例を聞きたく、参加させていただきました。3校の事例や質疑応答からたくさんを学ぶことができました。
- ・ 各学校の実践を紹介してもらい、カリ・マネの具体をイメージすることができました。
- ・ 他県の実践を聞くことができることは本当に勉強になります。自校でできることをたくさん見付けることができました。
- ・ 総合的な学習の時間の創設期に各校で必死に単元構想を練っていたことを思い出しました。指導要領の改訂に伴い、もう一度カリキュラムを考えてみたいです。
- ・ 目的や意図を常に意識しながら授業づくりをするのとそうでないのは、教育効果が大きく異なると思います。私自身学び続けたいと強く思いました。

第2部

- ・ 子供たちの思考の流れにそって授業を行うことが改めて大切だと思いました。
- ・ 授業場面を取り上げ、子供の学びを分析し、語り合ったことがとてもよかったです。

※ 参加者がカリキュラム・マネジメントの具体を知り、実践をイメージできたことが、今回の NITS カフェの最大の成果であった。各教科等の学びをつなぐために作成された総合的な学習の時間を軸にしたカリキュラムデザインや、各教科の学びを活用・発揮するために実践された総合的な学習の時間の授業は、参加者の今後の実践の参考になると思われる。

また第2部では、子供の学ぶ姿とともに授業改善の視点が説明されたことによって、アクティブ・ラーニングの理解が進んだという声が多く寄せられた。他者とともに子供の学びを分析するワークショップが取り入れられ、参加者自身がアクティブ・ラーニングを実践し、「深い学び」を実感することができた。

今後も今回のような会を活用し、授業改善を啓発していきたい。

(参加者)

小学校・中学校・高等学校教員：45人、教職大学院教員・学生：4人、
行政関係者（指導主事等）：9人

計 58人

アイデアや工夫したこと：

- ・ 三校の実践発表後、その内容に対して班内で懇談する場面を設けた。発表者は各班をまわり、班内で出た意見や質問について補足や説明を行った。少人数で話しやすい雰囲気のもと、マトリックス表に意見をまとめながら発表を振り返ることで、発表内容の深い理解につなげることができた。【写真1参照】

<写真・図など>



←【写真1】

第1部は、三校の事例を聞いた後、6人ずつの班に分かれて、以下の視点に沿って振り返りを行った。

[視点]

三校それぞれの取組から

- ・ 参考になったところ
- ・ もっと聞いてみたいところ
- ・ 理解が深まったところ

【写真2】→

第2部は、アクティブ・ラーニングに関するワークショップを行った。ミニワークを挟み、具体的な事例を紹介しながら、ワークショップが進められた。ミニワークを挟むことにより、参加者のアクティブ・ラーニングに対する理解は深まったと思われる。第1部と同様、第2部も、終始和やかな雰囲気で行われた。

